

社名変更は2025年1月1日予定



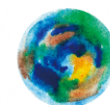
ENEOS Xplora

新潟カーボンニュートラル推進シンポジウム

カーボンニュートラル社会に向けた イノベーションへの挑戦

2024年8月29日

ENEOS Xplora株式会社



Explore the **EARTH**
and Create **Value**

ENEOSグループのご紹介

<h2>石油製品ほか</h2> <h3>石油精製販売</h3> <p>石油製品の精製・販売、基礎化学品の製造・販売、潤滑油事業など</p>  <p>▲当社SS</p> <p>国内燃料油*1販売シェア 約50% 国内1位</p> <p>▼次世代エネルギー事業も積極的に推進</p> <h4>水素</h4> <p>国内外水素サプライチェーンの早期構築を目指す</p>  <p>2025年度から各種設備の建設開始、2030年までに水素供給SCを構築</p> <h4>SAF</h4> <p>自社製造体制の構築を目指す</p>  <p>1号機：40万KL/年、2027年以降運転開始予定</p> <h4>合成燃料</h4> <p>自社技術による合成燃料の製造体制確立を目指す</p>  <p>低炭素ハイオクガソリン(合成燃料混合)を2027年頃から一部地域より供給開始予定</p>	<h2>電気</h2>  <p>▲川崎天然ガス発電所</p> <p>業務用・家庭用電力/都市ガス(ENEOSでんき/ENEOS都市ガス)の製造・販売およびVPP事業の推進</p> <h2>再生可能エネルギー</h2>  <p>▲うるまメガソーラー</p> <p>再エネの開発・発電・販売</p> <p>電源容量(稼働中+建設中) 127万kw (2024年6月末時点)</p>	<h2>金属</h2> <h3>半導体材料</h3>  <p>▲半導体用スパッタリングターゲット</p> <p>最先端IT機器(半導体等)、医療機器および電気自動車などの各種高機能デバイスへと応用できる製品の製造・販売</p> <h3>情報通信材料</h3>  <p>▲圧延銅箔</p> <p>モバイル端末などに使用される圧延銅箔・銅合金条などの製造・販売</p> <h3>基礎材料</h3>  <p>▲銅製錬</p> <p>銅鉱山での資源開発・販売、銅製錬、リサイクル事業など</p>
<h2>機 能 材</h2>  <p>▲低燃費タイヤ素材</p> <p>エラストマーなどの高性能素材の製造・販売</p> <p>環境負荷低減に貢献する世界シェアトップクラスの製品群</p>	<h2>石油・天然ガス開発</h2> <h3>石油天然ガス開発</h3>  <p>▲ランドン油田</p> <p>石油および天然ガス開発、生産および販売</p> <p>原油・天然ガス 権益生産量 9万バレル/日 原油換算(2023年度実績)</p> <h3>CCS*2/CCUS*3</h3>  <p>▲Petra Nova CCUS プロジェクト</p> <p>CCS/CCUS事業の推進</p> <p>CCS / CCUSの早期実装に向けた取り組みを国内外で推進</p>	<h2>そ の 他</h2> <p>NIPPO (アスファルト舗装) など</p>

*1 国内燃料油=ガソリン、灯油、軽油、A重油の合計

*2 Carbon dioxide Capture and Storage : CO₂の回収・貯留

*3 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage : CO₂の回収・有効利用・貯留

ENEOSグループのカーボンニュートラル基本計画

ENEOSグループ 長期ビジョン

ENEOSグループは「エネルギー・素材の安定供給」と「カーボンニュートラル社会の実現」との両立に向けて挑戦します。

カーボンニュートラルを 取り巻くグループの事業領域

日本の一次エネルギーにおける当社寄与率：約15%（原油・ガスの取扱量換算※）
弊グループの温室効果ガス排出量(Scope1+2+3)：約2.1億トﾝ/年（日本の温室効果ガス排出量：約12億トﾝ/年）

※経済産業省公表値をもとに当社試算

ENEOSグループのカーボンニュートラル指針

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、
温室効果ガス排出削減を進めるとともに、社会の温室効果ガス排出削減に貢献するため、
「エネルギートランジション」と「サーキュラーエコノミー」を推進します。

弊グループの温室効果ガス排出削減

将来の炭素価格上昇に対する備え

- 2040年度に向けて、弊グループ排出分※のカーボンニュートラル実現を目指す ※ Scope1+2が対象
- 2030年度に向けて、温室効果ガス46%の削減※を目指す。
※ 2013年度対比
- カーボンニュートラル実現に向け、弊グループの温室効果ガス排出抑制、**CCS(CO₂の回収・貯留)**、CO₂除去(森林吸収等)に広く取り組む。

+

社会の温室効果ガス排出削減への貢献

カーボンニュートラルを将来の事業の柱に

- 政府や他企業と歩調を合わせて取り組み、2050年度に向けてScope3を含め、カーボンニュートラル実現を目指す。
- エネルギー分野では、再エネ拡大、水素・カーボンニュートラル燃料等の早期実用化を通じてエネルギートランジションを推進し、2040年度を目途にエネルギー供給あたりのCO₂排出量(CI※)の半減を目指す。
- 素材・サービス分野では、素材原料転換等によるサーキュラーエコノミーの推進、削減貢献量の拡大に取り組む。

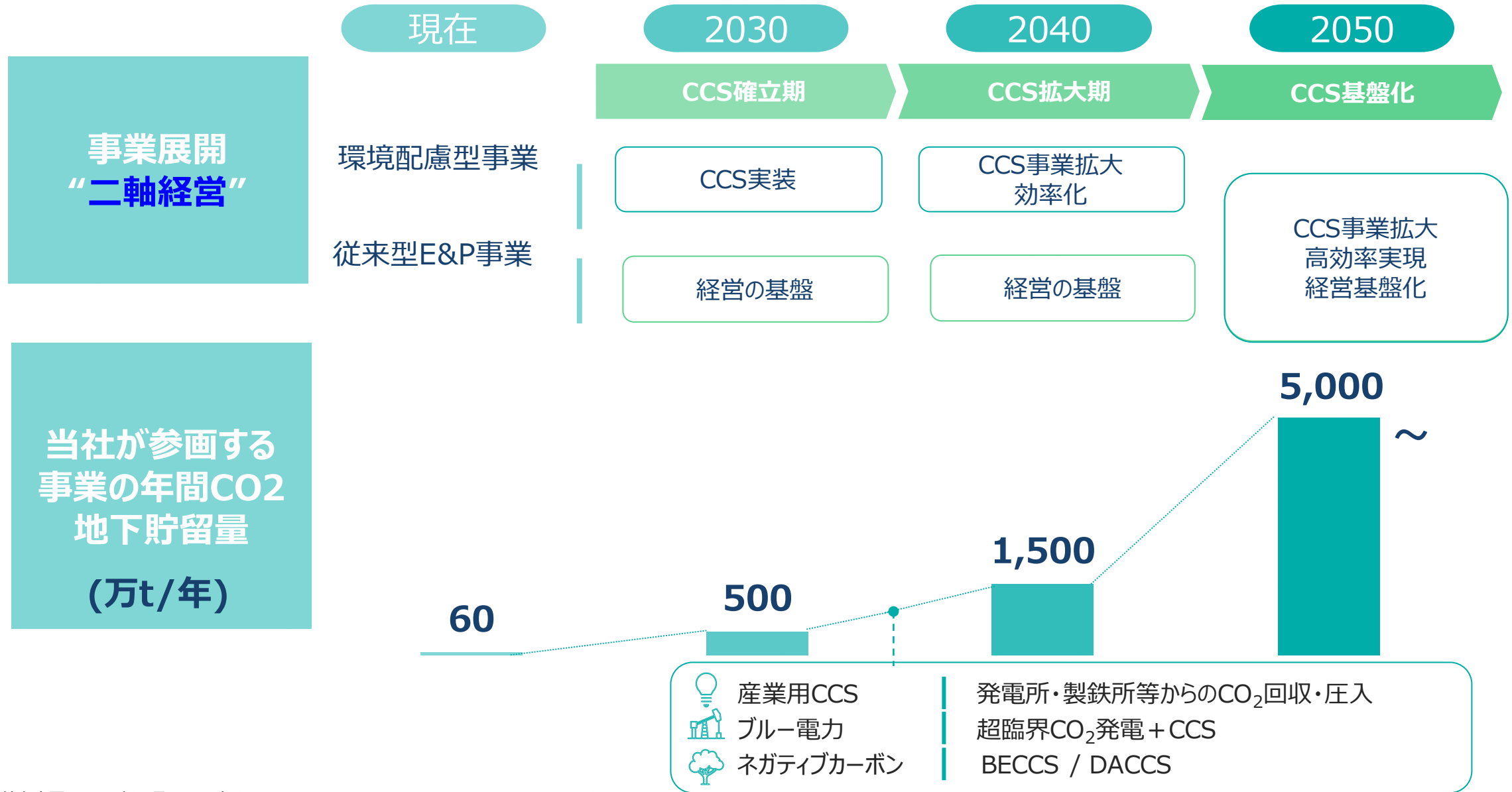
※Carbon Intensity (炭素強度)

社名変更は2025年1月1日予定

ENEOS Xplora株式会社

出典 https://www.hd.eneos.co.jp/company/system/pdf/e_hd_jp_ot_fy2023_01.pdf

ENEOS Xploraの2050年に向けたエネルギーtransition ロードマップ



ENEOS XploraのE&P事業

プロジェクト数

8か国 30件以上

世界各地でグローバルに石油や天然ガスの開発プロジェクトを推進しています。
優良案件の発掘をはじめ、これからも新たな可能性に向けて積極的に事業に取り組んでいきます。

新潟県胎内市



開発 生産

> UAE・カタール (ADOCプロジェクト)



探鉱 開発 生産

> ベトナム (15-2鉱区)



探鉱 生産

> 日本 (中谷油蔵所 新潟県)



生産

> アメリカ (Cooley (陸上)、K2ほか海上各鉱区)



開発 生産

> パプアニューギニア (原油生産プロジェクト、PNG LNGプロジェクト)

UAE・カタール

ベトナム

日本

アメリカ

マレーシア

パプアニューギニア

インドネシア



探鉱 開発 生産

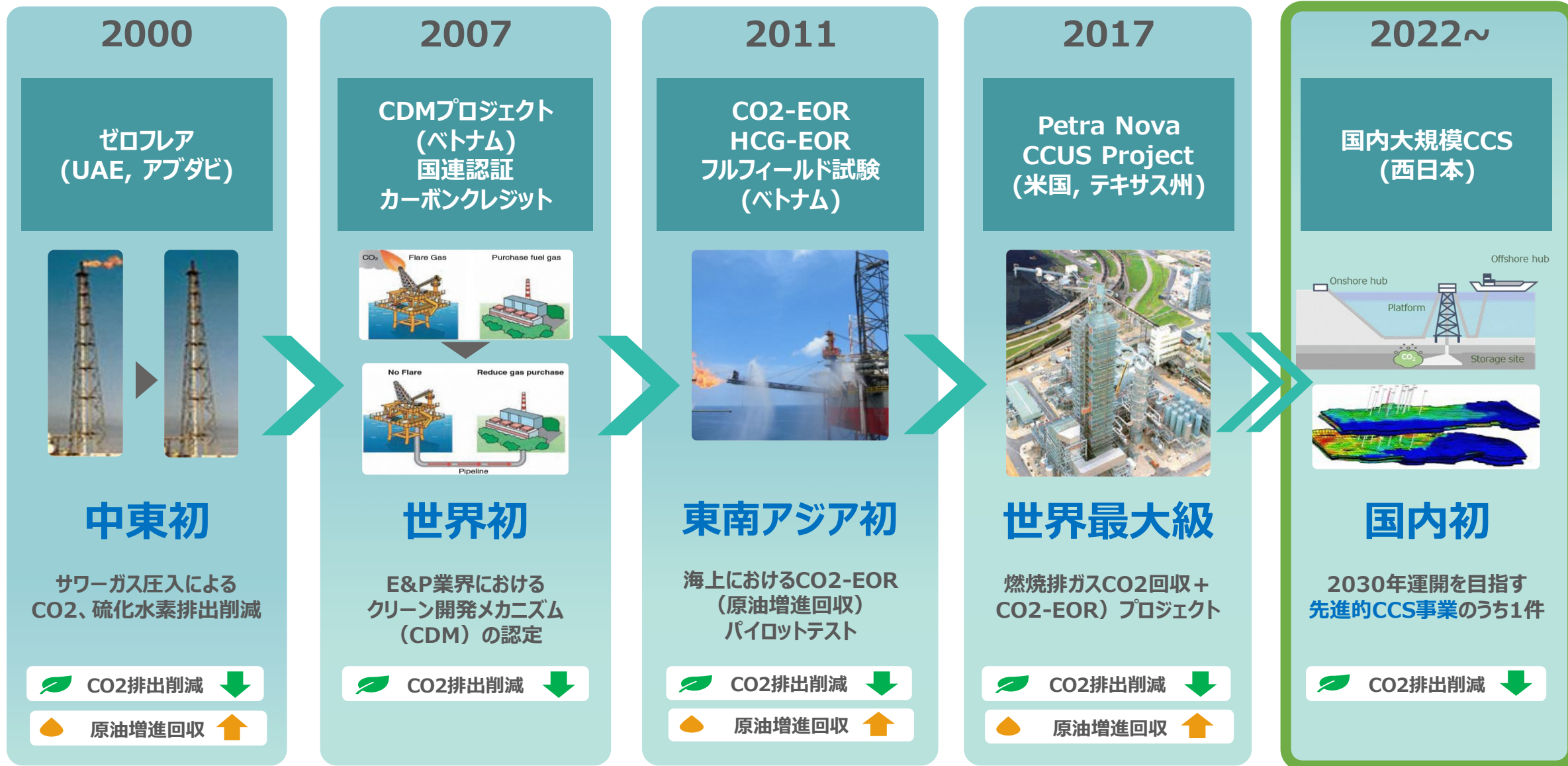
> マレーシア (SK10プロジェクト)



探鉱 開発 生産

> インドネシア (バラウ鉱区、タンゲールLNGプロジェクト)

ENEOS Xploraにおける環境分野におけるイノベーションへの挑戦



中条油業所（新潟県胎内市）

新潟市の北東約40km



- 1959年より天然ガスの生産を開始。これまでの生産量は50億 m^3 を超え、油・ガス田として、現在も順調に操業中。

- 南北12km/東西2kmの鉱区から、**天然ガス**、**原油**、**かん水**を生産

- **天然ガス**： 都市ガス用原料・工業用燃料としてパイプラインで出荷
- **原油**： タンクローリーで直江津オイルターミナルに出荷、他社の油田の原油とブレンドされてタンカーで製油所へ
- **かん水**： **コード**を回収し医薬品原料等として主に海外に販売
一部は**温泉水**として近隣温泉施設に供給



製品コード（純度99.7%）



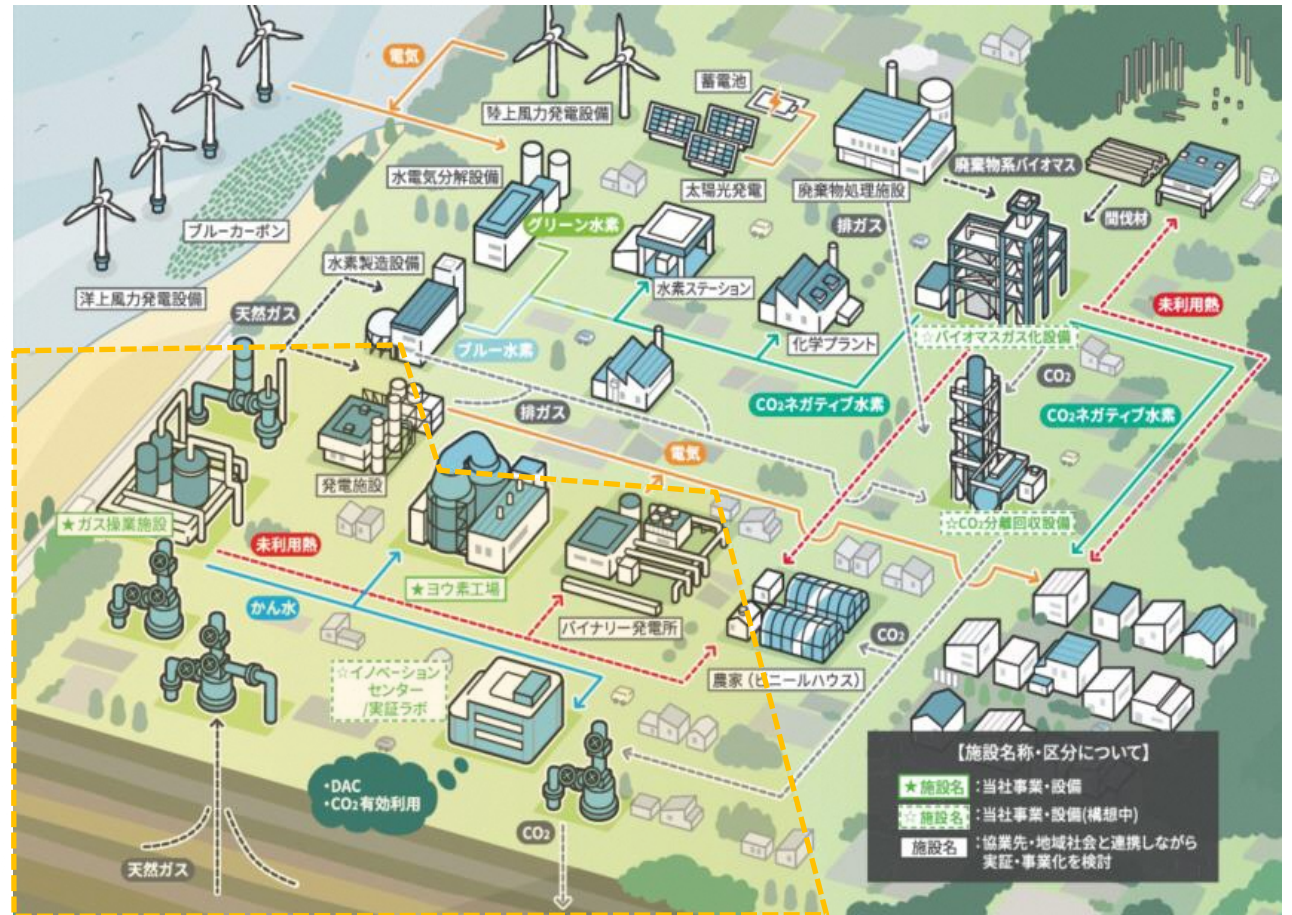
— 自社パイプライン

● 構造性ガス田 ● 水溶性ガス田 ● 油田



中条共創の森オープンイノベーションラボ(NoiL)の設立

- 中条油業所が有する資源(人・設備・技術・行政地域社会との関係性)を活かし、行政・大学などを含む近隣協業先との共同実証・研究を実施するため、2022年4月に中条共創の森オープンイノベーションラボを開設。地域のCNへの貢献を目指す。



NOiLと地域社会のカーボンニュートラル化～イメージ図

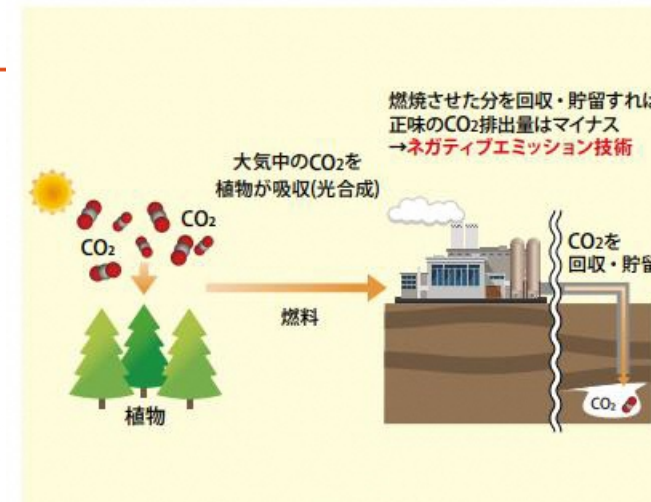
https://www.nex.jx-group.co.jp/newsrelease/upload_files/20210930_release.pdf

社名変更は2025年1月1日予定

ENEOS Xplora株式会社

中条BECCUSプロジェクト概要

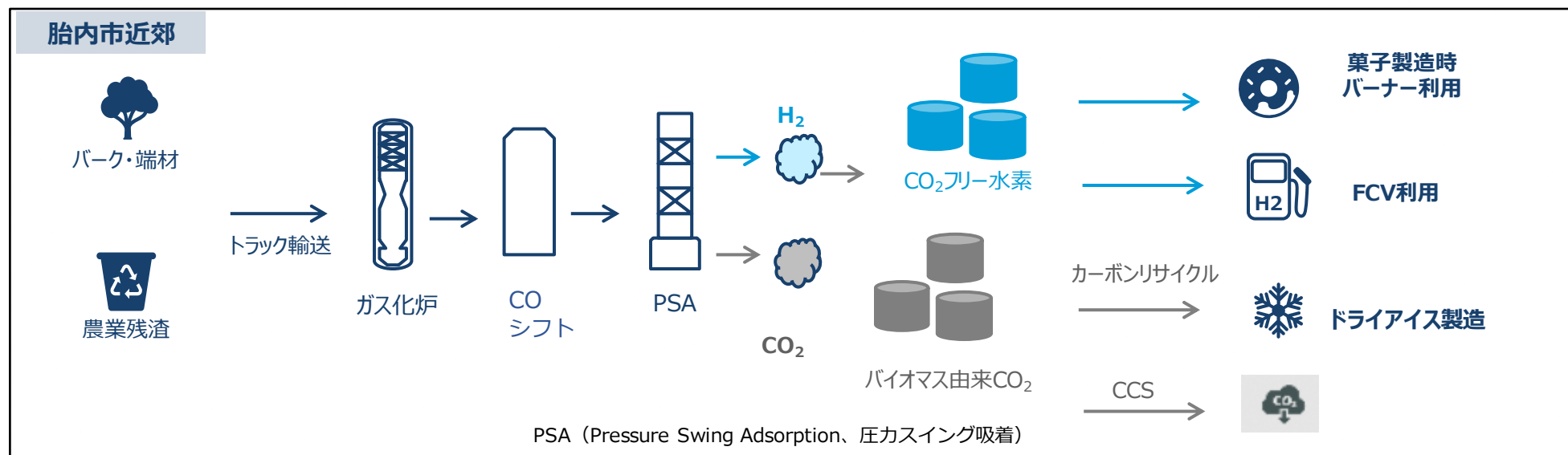
- 中条油業所周辺にバイオマスガス化水素製造設備（+ CO2分離回収設備）を設置。
- **地産地消をビジネスモデルとし、新潟近郊の農業残渣から水素製造、及び分離・回収したCO2を有効活用**
- CO2ネガティブ水素製造、他副産物（CO2/熱/バイオ炭）の環境付加価値化を目指す。



BECCUS: バイオマス + CCS

出典：[ccus_brochure_0212_1_J.pdf \(env.go.jp\)](https://www.env.go.jp/ccus_brochure_0212_1_J.pdf)
環境省

事業スキーム（案）



社名変更は2025年1月1日予定

ENEOS Xplora株式会社

新潟県での産学連携のご紹介

新潟大学 2024年1月19日

「SDGs 推進プロジェクト基金」への寄附
～ペロブスカイト太陽電池等の次世代技術の開発促進を支援～



新潟大学で行われた寄付受贈式に参加した当社中原社長や新大牛木学長ら関係者

https://www.nex.jx-group.co.jp/newsrelease/upload_files/NOEX20240119JP.pdf

社名変更は2025年1月1日予定

ENEOS Xplora株式会社

新潟食料農業大学 2023年5月24日

かん水に含まれるフルボ酸の植物生育の効能に関する研究
について

【研究概要】

1. 研究目的：中条油業所で産出されるかん水中のフルボ酸が植物の生育に与える効能を検証すること
2. 研究担当者：新潟食料農業大学 趙鉄軍准教授
3. 研究期間：2023年3月9日から2024年3月31日



研究のためのビニールハウス内部

https://www.nex.jx-group.co.jp/newsrelease/upload_files/20230524JP.pdf



実験中の葉菜類